

2014年 同学会

神戸市外国語大学中国学科同窓会

日 時：平成26年11月23日(日) 14時～19時30分

場 所：神戸市外国語大学 大ホール・三木記念会館

日 程：

第1部 中国映画と講演、総会 14時～17時 大ホール

(1) 映画：『唐山大地震』

(2) 講演：『震災と映画』

講師：韓 燕 麗 先生（関西学院大学准教授）

(3) 総会

第2部 懇親会 17時20分～19時30分 三木記念会館



2014年 同学会のお知らせ

中国映画と講演



日時 11月23日(日) 14時～19時30分
(受付は13時半～)

場所 神戸市外国語大学 大ホール

日程 第1部:14時～17時 中国映画と講演、総会



(1) 映画:『唐山大地震』

東日本大震災の影響で日本公開が中止された幻の作品
日本未公開・字幕つき

(2) 講演:『震災と映画』

講師:韓燕麗先生(関西学院大学准教授)

～映画・講演～

在学生(学科不問)・外大職員は無料!!

当日入り口で学生証(身分証明書)をご提示ください

(3) 総会

第2部:17時20分～19時30分 懇親会

於:三木記念会館

会費 ¥5,000- (食事代含/当日受付にてお支払いください)

申込 中国学科の各回生代表から案内メールが届きます
—参加の場合は、各回生代表へメールで返信をお願いします

申込締切日 11月14日(金)

キャンセルの場合は11月21日(金)までをお願いします

メールが届かない場合など…

問合せ:神戸市外国語大学名誉教授
同学会会長 佐藤晴彦

携帯:080-6172-8059
メールアドレス:qqf62279k@ray.ocn.ne.jp

2014年 同学会 総会・懇親会次第

総会（大ホール）

開会の辞

議長選出

会長・役員選出

会務・会計報告

会則改正について

その他

閉会の辞

懇親会（三木記念会館）

開会

会長挨拶

乾杯

歓談

校歌斉唱

閉会

神戸市外国語大学 同学会 役員・理事 (案)

会 長 佐藤 晴彦(C17)	副会長 北 基行(C6) 副会長 岡本 悠馬(C56)
事務局 中野 貞弘(C19)	会 計 逢坂 理嘉(C59)
役 員 藤本 恒(外専3) 友田 元成(C3) 北 基行(C6) 永田 克己(C8) 永井 興一(C10)	役 員 稲飯 恒雄(C11) 山谷 哲郎(C12) 前川 征治(C15) 角川 和子(C20) 中瀬 恵津子(C29)
理 事 外専1~3 藤本 恒(外専3) C1~4 友田 元成(C3) C5~7 北 基行(C6) C8 永田 克己(C8) C9 C10 永井 興一(C10) C11 稲飯 恒雄(C11) C12.13 山谷 哲郎(C12) C14 榊原 弘(C14) C15 前川 征治(C15) C16 C17 佐藤 晴彦(C17) C18 中村 勝之(C18) C19,21 中野 貞弘(C19) C20 角川 和子(C20) C22 金野 敏信(C22) C23 永井 信之(C23) C24 瀬戸口(中山) 美和子(C24) C25 C26 崎田 洋一(C26) C27 C28 竹内 誠(C28) C29 中瀬 恵津子(C29) C30 山田 忠司(C30) C31 C32 木戸 郁穂(C32) C33 神保(柯) 雅卿(C33) C34 渡辺(山口) 承美(C34)	理 事 C35 祭貴(久保田) 貴美子(C35) C36 戸高 雄一郎(C36) C37 C38 稲田(加護谷) 春江(C38) C39 菅原(村岡) 慈子(C39) C40 坂田 雪子(C40) C41 C42 C43 濱 涉(C43) C44 林 洋史(C44) C45 伊庭 日出樹(C45) C46 柿本 匡晶(C46) C47 杉山 志郎(C47) C48 萬代 恵(C48) C49 C50 川澄 哲也(C50) C51 干野 真一(C52) C52 中林 信人(C52) C53 C54 C55 C56 岡本 悠馬(C56) C57 吉川 瞳(C57) C58 渡瀬 史子(C58) C59 逢坂 理嘉(C59) C60 仲谷 明洋(C61) C61 田中 結衣(C62) C62 家元 良太(C62)

神戸市外国語大学 同学会 出席者 (懇):懇親会のみ出席 [総]:総会のみ出席 13:40

No.	期 氏 名	No.	期 氏 名	No.	期 氏 名
1	C3 尾寄 昇	41	C24 宮本(池谷) かをる	81	C56 岡本 悠馬
2	友田 元成	42	C25 小森(辻林)己智子	82	C58 高松 真弓
3	C4 圓尾 光司	43	C26 前田 文夫	83	澤田 麻由美
4	岡田 雄之	44	C28 竹内 誠	84	越野 薫
5	片山 満正	45	C29 佐竹(藤村) 美和	85	渡瀬 史子
6	C6 東 二郎	46	生川(堀井) 敬子	86	C60 渡部 恒介[懇]
7	今西 喜章	47	黄 媛玲	87	C61 深澤 友理恵[懇]
8	北 基行	48	中瀬 恵津子	88	C62 家元 良太
9	C8 古川(木下) 平三郎	49	C32 木戸 郁穂		
10	永田 克己	50	木戸(榮森) 紅葉		
11	C9 石黒 豊彦	51	C33 神保(柯) 雅卿		
12	C10 宮本(大橋)たか子	52	名田 勝[懇]		
13	塩見 昌計	53	C34 栗田(竹内) 佳子		
14	永井 興一	54	石田 典子		
15	C11 牧野 喬穂	55	岸田(小松) 幸子		
16	山本 靖征	56	平木(一野) 朋子		
17	米原 富士雄	57	古谷(木村) 昌世		
18	C12 天野 健彦	58	三阪(山本) 敦子		
19	門 真郎	59	渡辺(山口) 承美		
20	佐藤(小畑)幹夫	60	田中 裕子[懇]		
21	山谷 哲郎	61	C35 祭貴(久保田) 貴美子		
22	C15 前川 征治	62	菅原(北能) 香[懇]		
23	C16 高橋 庸一郎	63	岩崎 浩一[懇]		
24	辻井 武彦	64	C36 大西 史子		
25	C17 三好 南海雄	65	渋谷 有美		
26	佐藤 晴彦	66	鳴海(吉本) 麻里		
27	C18 日下 恒夫	67	光畑(吉田) 直子		
28	C19 中野 貞弘	68	貸谷(澤村) 文子		
29	C20 角川 和子	69	戸高 雄一郎		
30	C22 牛原 秀治	70	古田(森脇) 康江[総]		
31	鎌田(岡野) 美恵	71	C38 江本(内田) 良江		
32	葛原(岸本) 美幸	72	稲田(加護谷) 春江		
33	竹村 雅行[懇]	73	岡本 重雄		
34	作野 富夫[懇]	74	修 23 渡部(木下) 洋		
35	金野 敏信[懇]	75	C40 大泉 純子		
36	C23 片山 啓	76	若森 由佳子		
37	C24 林 純生	77	C41 橋本 昭典		
38	松本 隆雄	78	C44 林 洋史		
39	橋崎(森本) 恵子	79	C46 高橋(横田) 香織		
40	福井(矢尾) 栄子	80	C47 箱崎 洋子		

神戸外大同学会 会則

- 第1条 本会は神戸外大同学会と称する。
- 第2条 本会の会員は次のものをもって組織する。
- 1) 神戸市立外事専門学校中国語科並びに神戸市外国語大学中国学科卒業生。
 - 2) 会員の推薦により役員会が承認したもの。
- 第3条 本会は会員相互の親睦と友好のために協力することを目的とする。
- 第4条 本会の事務所は神戸市外国語大学楠ヶ丘会に置く。
- 第5条 本会は目的達成のため次の行事を行なう。
- 1) 神戸市外国語大学及び楠ヶ丘会との情報連絡に関すること。
 - 2) 会員相互及び関係者との交流に関すること。
 - 3) その他目的達成に必要な行事及び事業。
- 第6条 本会に次の役員を置く。
- | | |
|--------|-----------|
| 1) 会長 | 1名 |
| 2) 副会長 | 2名 |
| 3) 理事 | 卒業年度ごとに1名 |
| 4) 事務局 | 若干名 |
- 第7条 役員は次の業務を担当する。
- 1) 会長は会を代表し会務を統括する。
 - 2) 副会長は会長を補佐し、事故あるときは代行する。
 - 3) 理事は本会の運営にあたる。
 - 4) 事務局は本会の事務、会計を担当する。
- 第8条 本会は役員による役員会を組織しすべての運営を行なう。
- 第9条 本会の役員の任期は2年とし再任を妨げない。
- 第10条 本会の会長及び副会長は役員会の推薦により総会において選出する。理事・事務局は会長が推薦し総会の承認を得るものとする。
- 第11条 本会は次の会議を開催する。
- 1) 総会は2年に1回開催する。
 - 2) 役員会は会長が必要と認めた場合並びに行事の計画を行なう場合に随時招集し開催する。
- 第12条 本会の運営費用は会費・助成金並びに寄付金をもって行ない、会費は行事のつど実費を徴収する。
- 第13条 本会則に定めない事項は役員会において決定する。
- 第14条 本会の会則改正は総会において行なう。
- 付則 この会則は1997年11月30日より施行する。

唐山大地震と私の避難体験

森田 隆男（神戸市外国語大学 中国学科第18回生）

1976年7月28日未明の唐山大地震は一生忘れることが出来ない体験である。天津で開催される「化工小交易会」（＝化学品ミニ商談会）に出席の為、同じ会社の先輩のK氏と前日の7月27日、北京から汽車で天津に着いた。天津友誼賓館というホテルに着き、サムソナイトに詰めてあった衣類などをホテルの部屋の箆笥に全て納めた。「小交易会」の開催期間は一週間であったと記憶している。当時は、ホテルが不足しており一部屋二人が普通であった。従い、先輩のK氏と同室となった。（後の記述で、同室が良い結果に繋がったことを理解いただけると思う）又、エアコンも冷蔵庫もなかった時代である。K氏とフロアスタンド式扇風機をかけ、生ぬるいビールを飲みながら旅の疲れを癒した後、早々にそれぞれベッドに入った。

ぐっすり眠っていた時、突然K氏が「森田君地震だ！すぐベッドの下に避難しなさい」と大声で起こしてくれた。K氏は太り気味の人であったが上手くベッドの下に腹這いの状態で身構えていた。「先輩、ベッドの下にどの様にして入ったのですか？」と聞くと「足から入りお尻でベッドを持ち上げるのだ！早く！」私も腹這いになった状態でベッドの下に避難したが、天井からは漆喰らしきものが落ちてくるは、扇風機が倒れるは、床は縦方向に大きく揺れるは、このまま続けば「ホテルがパンクして崩れてしまう」という予感がした。

一分位か、暫くして大きな揺れが収まり、「ホテルは潰れていない、助かった！」と自覚した。K氏は「モスクワ友好大学理系卒」の秀才で「森田君、余震が来るまで30分位の時間がある。荷物をまとめて外に出よう！」とアドバイスしてくれた。（K氏と同室でなければ多分飛び出ていたと思う。今でも同氏に

感謝している）箆笥の中の荷物をすべてサムソナイトに詰め直し、背広を着直しネクタイも締め、部屋から出ようとする、暗い廊下の階段付近で「同志」が（＝当時はボーイ（サービス員）と呼ばなかった）「急いで下さい！」と緊急避難の声を荒げていた。K氏は「森田君、風呂場にシャンプーをわすれているよ！」と注意してくれシャンプーまでもカバンに詰め込み「同志」が懐中電灯で照らしてくれている暗い廊下を歩いて渡り、階段を降りようとする、階段はほぼ潰れており、これは大きな地震だと改めて認識し足下に注意しながら一階まで下りた。

ホテルの外にでると、大型バス10台ほどが待機してくれていた。（迅速な中国の危機対応に感謝している）K氏と私はサムソナイトと書類カバンを両手に持ち、背広にネクタイの出で立ちでバスに乗り込んだ。バスの中に逃げてきた人は、日本人のほか、フランス人、フィリピン人などの女性もおられ裸足でバスタオルだけを身体に巻きつけた状態で慌てて逃げてきた様子を窺うことが出来た。暫くすると夜が白々と明け始めてきたが、その空の色は映画で見た「お岩さんの臉」のような気味の悪い色であった。又、ホテルの屋上から万国旗でも垂らしているのかと思っていたら、明るくなるにつれてホテルの壁が地震で剥がれ落ちた正方形の跡で国旗に見えたことが分かった。

小一時間ほど待機したのであろうか、バスが縦列状態で動き出したが、窓から見える光景はレンガ造りの家が崩れ、生き埋めになっている人を必死に助け出そうとしている生々しい様子が目に入って来た。カメラを持っていたがシャッターを切るような気持ちには到底ならなかった。バスは体育場のグラウンドに向かいその中に入るとまるで映画で見た戦

場の様に医師や看護婦そして包帯を巻いたけが人が担架に乗せられてごった返していた。グラウンドは屋根がないため、確かに安全であったが、現地のけが人でいっぱいであり、暫く待機した後、バスが動き出し戦前に建てられたのであろう西洋風の大きな建物の中に避難させてもらった。

次に、不思議な作業が見事に完了するのだが、我々二人は完全装備でいつでも移動できる体制であったが、ほかの日本人、外国人は着の身着のままであったため、ホテルからそれぞれのパスポートのほか、靴、衣類など最小限の必需品を取りに行く必要があった。外国人は危険なため、中国の人たちが代わりにホテルに戻ってくれ、各自のパスポートや靴、衣類などほぼ間違いなく持って帰って来てくれた。(当時は、中国への入国 VISA の取得が制限されていた。その代りに入国した外国人は「賓客」で VIP 扱いであった。外国人保護＝監視体制が徹底されていたに違いない)

余震が続く中、ホテルがいつ崩壊するかも知れない危険な状態の中で犠牲を恐れず荷物を取りに行ってくれた中国の人達の犠牲を恐れない奉仕と勇氣ある行動に感謝した。その西洋風の建物の中には大きなホール(＝昔、舞踏会を開いた社交場に間違いなかった)でその中に避難した我々「外賓」に温かい食事の提供が行われた。しかし、大きな余震が度々繰り返し、地震になれていない外国人は余震が起こるたびにグループ毎に悲鳴を上げて外に逃げては中に戻ると行動を何度も繰り返していた。

大地震があったことは間違いがないが、規模はどれ位で、被害状況はどうか全く情報がなかった。それでも、我々が無事であることを日本に知らせたいと考えたが、「電話」は通じない。そこで電報を打ちたいと中国側(化工小交易会主催者＝中国化工進出口公司)に願いでて交易会に参加した30名程度の日本人の名前を取り纏め「天津に無事にいる」との電報を作成して打電してもらった。当時の通信手段は「電報」でも四ケタの数字で一つの漢字を表す「码电」というものであった。その西洋風の建物に二泊したのであろうか? 情報が入ってこない中で、中国側より天津も危険であり、これから上海に避難して頂くことになったと通知があった。

北京に向かうのも鉄道が不通になっており、上海に向かうということであった。

三日目の夜晩く「これから天津駅に向かいます。そこで汽車に乗り上海に避難してもらいます」という連絡があり、全員バスに分乗し天津駅に向かった。驚いたことに危険を避けるためプラットホームに直接バスを乗り上げ、列車に乗り込んだ。後で知ることになるが、その列車は定期便で満席であるが、我々「外賓」の為に二、三輛の列車を特別に連結して頂いた。翌未明、汽車は天津を離れ上海に向かって動き出した。数時間後、エコノミックアニマルを自負していた商社マンである我々は同乗していた青島からの商談会に来ていた会社の先生を見つけ車中で商談を始めることとなった。

そのほぼ同時に、「ガシャーン」という大きな衝撃音が鳴り列車は急停車した。何が起こったのか、余震か、と思い、窓から外をみると踏切付近で牛が列車に轢かれ頭部が飛んで見当たらない。胴体のみが痙攣をおこしているという悲惨な状態を目撃した。

「先生、商談はこれにて打ち切りとしましょう！」お互いに納得し、先生方は青島に戻るため「済南駅」でお別れし、我々は一路上海に向かった。当時は列車にはエアコンなどなく、窓を開けたままで蒸気機関車の煤が顔にねっとり着き喉は乾いてどうなるのかかと思いつつながら徐州駅に着いた時、「冰棍」＝アイスキャンデーの配給があり生き返った思いがした。これも、我々「外賓」が列車で避難すると連絡を受け、徐州市の人たちが準備してくれたものと感謝している。

それから延々と長旅が続くが翌日の未明に南京駅に着いた時に「汽水」＝サイダーとバターを塗った食パンの差し入れがあった。その食パンは厚みがたっぷりあり、柔らかく空腹の我々には特に美味しく感じた。いや、高級食パンであったと思う。感謝の連続である。そうこうしていると夜が明けて来て朝8時ごろ汽車はゆっくりと上海駅に到着した。計算してみると天津を出て約30時間かかったことになる。その上海到着日は8月2日であったと記憶しているが、定かでない。上海駅から「和平飯店」に移動、そこで数日滞在することになった。ここでまた、上海での「化工小交易会」なるものを臨時に開いた貰った記憶があるが商談したかどうか記憶はほとんど

ない。

ようやく上海で日本との電話連絡が取れ、我々日本人が無事であることの連絡ができたが、日本のメディアは中国で大地震があったと知り、東京から我々の部屋に電話があり、天津の状況の取材を求めてきた。又、本社も正確な情報を掴め切れておらず、我々二人に上海から青島に行き商談を纏めるようにという指示を出してきたが、交通・通信も不通でそんな状態でないことを説明し帰国許可を取り付けた。

数日後、日中両国政府のアレンジと思うが、北京発上海経由、羽田空港行き特別チャーター便に乗り込むことが出来た。機体は英国製の「トライデント」であった。客席は左窓から三列、真ん中が通路そして右に同じく三列という配列であった。

そこで、目にした光景は左最前列の窓際に遺骨を抱きかかえた黒装束のご婦人が座っておられ通路側には会社の方であろう人が座り、同じ最前列の通路側には会社の方、右窓際にもうおひとり同じ黒装束で遺骨を抱きかかえたご婦人の姿をみて、日本人にも犠牲者が出たことを知った。唐山より車で北京、推測だが北京で火葬され、その後北京空港から上海経由羽田という行程であったと推測している。

羽田空港に着き、「唐山大地震」はマグニチュード観測不能、死者約26万人、被害甚大という情報が、徐々に伝わってきた。この時に、発電所建設のプロジェクトで唐山に滞在されていたH社の方二名とS商社の人おひとりが大地震で建物の下敷きとなり犠牲になったと知った。(合掌)私の家族は勿論のこと両親、兄弟弟も中国で大地震があり、「モリタカオ行方不明」という記事が大阪の新聞に出たということでパニック状態であったと後で聞かされた。何かの間違いで「モリタカオ」が「モリタカオ」となっていた。当時、私の家族は、女房と5歳の長男そして4月に生まれたばかりの長女が千葉の松戸市の社宅に住んでいたが、行方不明と知った同じ社宅の親しい人も「もしや」とうことで女房に声を掛けることすら憚れたと後で聞いた。

その一か月後の9月初め北京に出張、何か様子がおかしいと感じたが毛沢東主席が亡くなられたという訃報を聞くことになる。会社の先生方は喪章をつけられいつも行われる「宴会」も中止となった。北京での仕事を早々に終え、一旦帰国し、10月、秋の広州交易会に参加した。(この時に、文化大革命終息に結びつく四人組が捕えられるという事件が発生している)

交易会終了後、「北上」(=北京駐在になることを当時はこの様に表現した)北京に着くと異様な光景が目についた。地震の影響でいつ家・建物が壊れるかも知れないという「恐怖感」から、ほとんどの北京市民は道路にテントを張り野営していた。私は新橋飯店の仮事務所(当時は職場と住居が同じであった)に長期滞在することになったが、夜、就寝前にベッドの右に椅子と懐中電灯を置き、それに防寒着を掛け、非常時には右に降り防寒着を身に付け懐中電灯を持って避難する練習を毎晩行った。ホテルの「同志」は「柜台」(=カウンター)にビール瓶を逆さに立て、地震の揺れをキャッチする訓練を繰り返していたのを覚えている。私自身も「地震恐怖症」であったのであろう、長い間一寸した揺れにも非常に敏感であった。

後日談だが、地震当日の7月28日未明、北京駐在のN氏は仲間と麻雀をやっていたが「役満」をテンパイした。その時にあの揺れが来て、この四人組は一時避難をするが、揺れが落ち着いてから部屋に戻り麻雀を続けた。「役満」を上がったかどうかは覚えていない。2005年上海に駐在していた時に、唐山で発電所の商談をしていたというH社のOBの方と偶然知り合いになった。その方は大地震があった日は、本社との打ち合わせで一時帰国しており運よく助かったと言われていた。

日中友好が永遠であることを祈りつつ！
谢谢!

2014年9月4日
拙宅にて

神戸市外国語大学 同学会（中国学科同窓会）の歩み

(敬称略)

回	開催日時	参加者数	会費 場所	講演等	来賓	備考
準備会	1997年(H9) 8月31日(日)	22	2,000円	中国学科卒業生の会 発起人の会		発起人代表：友田・原田・荒井・山川・牛原 準備会①6・27②8・27
1	1997年(H9) 11月30日(日) 14:00~17:30 発送 1318 回答 461 無回答 842	84 来賓7	6,000円 502号 三木記念 会館	南部稔(15C 神商大) 「香港のはなし」 二胡：鳴尾牧子(院) 琵琶：西村愛志(学)	須藤学長 坂本事務局長 長田名誉教授 渡邊同窓会会長 小林・原田同窓会副 会長、桂同窓会書記	原田会長・友田/山川 副会長 案内葉書 10月中旬発 送→締切 11/15 11/12 事務局会議 広島支部参加？
2	1999年(H11) 11月13日 発送 1330 無回答 946 (71.1%)	60 来賓5	6,000円 501号 三木記念 会館	富田昌宏(19C) 「体験的中国論」	東谷学長 坂本事務局長 長田名誉教授 渡邊同窓会会長 桂同窓会書記	原田会長・友田/山川 副会長 役員会①7/17 締切 11/5
3	2001年(H13) 11月17日 14:00~18:00 発送 1316(以降 回収率記録無し)	51 来賓5	6,000円 501号 三木記念 会館	榎原茂樹(14C) 「昨今の日中経済関 係」	東谷学長 長田名誉教授 渡邊同窓会名誉会長 須藤同窓会会長 桂同窓会書記	原田会長・友田/山川 副会長他 11名 役員会①9/9 事務局： 友田(兼任)、林、牛原 締切 11/5
4	2003年(H15) 11月15日 14:00~18:00 発送 1390	29 来賓1	7,000円 501号 三木記念 会館	藤原康晴(9C) 「井上翠編著の中国 語辞典について」	渡邊同窓会名誉会長	原田会長・友田、山川 副会長 役員会①9/6 締切 11/5
5	2005年(H17) 11月6日(日) 14:00~18:00 発送 1412	45 来賓1 学生5	6,000円 楠丘・三 木記念会 館	北 基行(6C) 「レストランの主人 のみた中国」	渡邊同窓会名誉会長	原田会長・友田、山川 副会長(原田会長長期海外 滞在のため山川会長代行) 役員会①9/4 締切 10/31
6	2014年(H26) 11月23日(日) 14:00~19:30 主にメール、会 誌上で通知	89 学 生 10	5,000円 大ホール 三木記念 会館	映画『唐山大地震』 講演「震災と映画」 韓燕麗(関学准教授)		佐藤会長・北、岡本 副会長(案) 役員会①9/20 会誌 53号(10/1 発送) で案内、締切 11/14

兵庫県警初の捜査部門の女性ノンキャリア所属長として、少年捜査課長を務める増田優子さん＝神戸市中央区下山手通5(撮影・峰大二郎)



兵庫県警少年捜査課長 増田優子さん

(26C)

男性中心の世界でも軽やかに道を切り開く。女性ならではの発想力を地域活性化に生かす。男女差を意識することなく自らを磨く。各所で活躍するさまざまな女性たちは、しなやかに歩み続ける。

女性草分け 経験継承を

典型的な「男社会」ともいえる警察組織に38年間、身を置いてきた。増田優子さん(59)は、兵庫県警で2人目の女性署長から今年、警察庁採用のキャリア以外で初の捜査部門の所屬長に就いた。

刑事ドラマにあこがれて警察官の道を選んだが、女性には厳しい環境だった。子育ては育児支援制度が未整備の時代。幼い子どもを無認可の保育施設に預けながら働いた。

「結婚や出産は仕事の支障になると思われがちだが、視察や仕事の幅が広がり、やりがいは増した」

阪神・淡路大震災では交番所長として被災者支援などに奔走。40代半ばで被害者対策室(当時)に配属され、性犯罪に苦しむ女性たちと出会った。被害者への公的支援は十分ではなく、

改善に力を注いだ。「男性がつくる施策だけではなく、女性のきめ細かな視点も生かされれば、警察の仕事の質は上がるはず」。このときの経験は持論となった。

県警の女性警察官は全体の約7%。被害者の大半を女性が占めるストーカーや配偶者からの暴力(DV)は増え、女性の積極参画が求められている。

県警は比率を2019年4月に9%まで引き上げる目標を立てたが、女性被害者や被害者への対応な経験の継承が急務とみる。同じ部署に複数の女性が在籍することが珍しいからだ。

後に続けていくためにも、「感性を磨き、力や視点を育む教養の機会が必要ではないかと提言する。

後輩たちが生き生きと働く職場に、警察の未来を重ねている。(井関 徹)

しなやかに

神戸市外国語大学 校歌

神戸外大教授

本田 実 作詞

下総皖一 作曲

堂々と $\text{♩} = 108$

1. むこやまのすそののおかべあ
 おくものつらなるほとり
 りょうらんせかいのぶんかをあつめ
 はなひらくせいきのがくふあ
 あほこうこうべーがいたいその
 なよとわにたかくかがやけ

絶	あ	悠	瀬		あ	燎	武
え	あ	遠	戸		そ	あ	庫
ざ	あ	古	潮	二	の	母	山
れ	我	今	の		名	校	の
	等	の	満		よ	神	裾
		真	ち		永	戸	野
	外	理	く		久	外	の
	大	を	る		に	大	丘
	学	悟	夕		高		べ
	徒	り			く		
		う			燦		
					け		

韓 燕麗

震災と映画

東日本大震災が発生した三日後の3月14日、松竹映画宣伝部より、中国映画『唐山大地震——思い続けた32年』の公開を自主的に延期するという内容のお知らせが出された。以下はその知らせより抜粋したものである（傍点は筆者による）。

『唐山大地震』は1976年に実際に発生した震災によって引き裂かれた、ある家族の32年にわたる絆と心の復興を描いたドラマであり、地震災害や被災状況を娯楽目的に製作したパニック映画ではありません。しかし、映画の中で描かれる唐山大地震と四川大地震の地震を再現したシーンや被災者の救出シーンなど一部の描写がこの時節柄上映するには相応しくないと判断し、公開の延期を決定致しました。

上記の文章にあった「パニック映画」という映画ジャンルは、1970年代から定着しはじめた

ジャンル名で、英語圏ではDisaster Movieという。このジャンルは、予期せぬカタストロフィの襲来による都市文明の崩壊を主題としている一方、メロドラマとしての側面つまり善悪二元論がジャンルのもう一つ欠かせない要素である。また、ジャンルのお約束事として、映画の結末には常に問題の解決——危機的な状況から逃れて町が元に戻るという（パニックな解決）と、登場人物が抱えていた個人的な悩みが解消されるという（プライベートな解決）の両方——が観客に提示される。その意味においては、典型的メロドラマの劇的構造を持つパニック映画は、そもそも単純に「災害や被災状況を娯楽目的に製作した」ものとは言えないのだろう。

さてネタバレに気を付けながら予告編を超えない程度で『唐山大地震——思い続けた32年』の内容を紹介してみよう。死者20万人も超えた唐山大地震の救出現場で、息子と娘のどちらか一人しか救えない状況のな

か、母親が断腸の思いで息子を選んだ。しかし廃墟の下で、母の選択つまり自分への死の判決を聞いてしまった娘が奇跡的にも生き延びた。彼女は家族の元に戻ることもなく、32年間、心に傷を負ったまま暮らしていた。四川大地震が発生した2008年、ともにボランティアとして被災地へ向かった姉弟が奇しくも再会し、32年間も断ち切っていた家族の絆は再び繋がったのである。この映画がパニック映画として特異なのは、一つの災害の中で問題の解決を提示せず、もう一つの災害の中で心の傷を癒した結末を提示したことである。映画の登場人物にとって、（プライベートな解決）つまり心の治癒には32年もの歳月を要した。一方、映画が描いた32年間は、中国にとって、まさに文化大革命の災難から立ち直って復興を遂げる32年間だった。唐山大地震が起こった二か月後の1976年9月に毛沢東が死去、その一か月後に10年も続いた文化大革命にようやく終止符を

打った。この暴力的な大衆運動による犠牲者数は、数百万人から1000万人以上だとされ、文化大革命によって中国の経済発展は30年遅れたと言われる。疲弊した経済を立て直すために1978年に改革開放政策が提出され、国内体制の改革および対外開放政策が同時に推し進められはじめた。その後30年にわたる中国の驚異的な経済発展は周知の通りである。2008年に開催された北京オリンピックは世界にその経済発展の成果を誇示する舞台でもあった。

32年も経って中国人はようやく過去を振り返る余裕ができた。心の復興なしでは、パニックな解決とプライベートな解決がともに提示されるこの映画は、作られることがなかったのだろう。東日本大震災を描く映画は、いつ世に出るのだろうか。その日が一日も早く到来することを祈るばかりである。